

茨城

ネットで秋厚労ニュース
http://www.shukouro.net/

ID shukouro
パスワード 0188643341

メール syukoro-kyosen@w3.dion.ne.jp

秋厚労ニュース

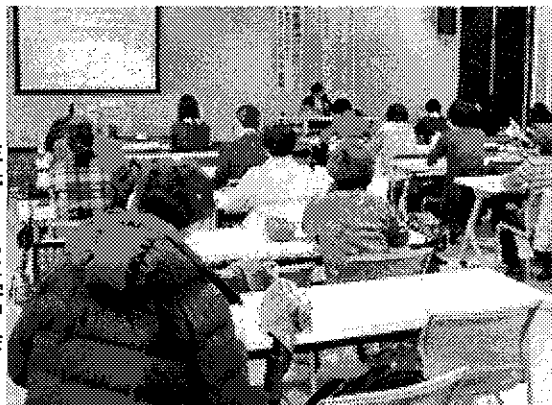
NO1737号

2017年1月30日
秋田県厚生連労働組合
秋田市山王5-4-2
TEL 018(864)3341
FAX 018(864)3349

離職の危険増

職員・住民・研究者
危機意識は同じ

茨城県厚生連で働く仲間たちには、いまだに「年末ボーナス」が支給されていません。これに対して、茨厚労は、指名ストライキによるチラシ配布、団体交渉開催の申入れ、地域への働きかけ、新たな経営分析、学習会などの活動を展開。来る2月7日に第4回団体交渉の開催が決まりました。



住民とともに学習会

プロの経営分析「人件費削れば経営危機に向かう」

昨年12月19日以降、茨城県厚生連労働組合（茨厚労）の再三の要請にも関わらず、同連の経営者は団体交渉に応じていません。そこで、この間、茨厚労は地域に入り、住民をはじめ、行政・議会・諸団体等との懇談を進めています。併せて、職場の仲間たちは休日返上でチラシをポスティング。事態を知った多くの県民から「いっしょに地域の医療を守ろう」などのメッセージが届いています。

経営はきわめて健全

一方、茨厚労は「赤字宣言の検証」も進めています。これまで経営分析を担っていた「医療介護情報分析センター（木高博氏）」に加えて、明治大学教授・山口不二夫氏、大東文化大学教授・山口由二氏、明治

住民とともに学習会

厚生連の公的医療機関こそ大切

「指名ストライキ」行動として、本所周辺でチラシを配布するとともに、「要請団」が経営者へ交渉開催の申入れ書を提出。これらの運

また、去る1月25日、「指名ストライキ」行動として、本所周辺でチラシを配布するとともに、「要請団」が経営者へ交渉開催の申入れ書を提出。これらの運

さらに1月29日（日）には、三重短期大学教授・長友薫輝氏を講師に招いて、住民も参加できる形での「学習会」を開催。40人が参加しました。

長友先生は、1980年代の「公的医療費抑制、医療介護のマーケット化」政策が安倍政権によって加速され、「病院M&A（合併・買収）」が日常化するようになってきていること。

厚生連の未来を左右

1986年の国立病院の統廃合・移譲から始まったM&Aが、今は「公的医療機関」のところに来ている

茨城県厚生連では、今の時期、「離職者の数」が具体的にかなりつつあり、いくつかの病院では、すでにその数が明らかに例年より多い様相です。茨厚労が安易な

茨城の行く末は、日本の「厚生連の未来」を左右します。秋厚労は、2月7日の団体交渉にも参加し、厚生連と地域の医療を守るために闘います。

茨城 第4回 団体交渉

2月7日(火)

18:00~

茨城県JA会館

大学名誉教授・山口孝氏に検証を依頼。財務のプロを育てる立場であり、日本でもトップクラスのこの方々が、あらためて分析してみたところ、「一過性の赤字」はあるものの、茨城県厚生連の経営状態は「きわめて健全」なことが判明。報告書には「ボーナスカット・リストラなど職員の人件費に手を付ける必要はないどころか、人件費に手を付ける

こと。公的医療機関には「医療政策の専門家」がいないことが多く、コンサルタンの誘導に感じやすいことなどを説明。「地域の中で公的医療機関の果たす役割」について、住民とともに考える場をつくることが重要だと強調しました。

この間の各研究者の分析や助言は、茨厚労の判断が正しいことを証明するもの。また、多くの住民が「事態の危険性」を理解し、ともに運動する意思を示しています。